

音楽聴取後の 多面的感情状態尺度

21111009

雨笠正太郎

目的

- ◆ 普段から生活に欠かせない音楽。
- ◆ 音楽によって感情状態に変化があるのか。

多面的感情状態尺度とは

抑鬱・不安		敵意	
	・不安な		・敵意のある
	・悩んでいる		・憎らしい
	・気がかりな		・うらんだ
	・自信がない		・攻撃的な
	・くよくよした		・むっとした
倦怠		活動的快	
	・だるい		・活気のある
	・疲れた		・気力に満ちた
	・つまらない		・元気いっぱい
	・退屈な		・はつらつとした
	・無気力な		・陽気な
非活動的快		親和	
	・のんびりした		・恋しい
	・おっとりした		・愛おしい
	・ゆっくりした		・好きな
	・のどかな		・愛らしい
	・のんきな		・素敵
集中		驚愕	
	・丁寧な		・びっくりした
	・慎重な		・驚いた
	・丁重な		・びっくりとした
	・注意深い		・動揺した
	・思慮深い		・はっとした

実験の材料

- ◆ 聴取用の曲 (アップテンポとスローテンポ)
- ◆ 質問紙

多摩大学の学生56名に実験を行った。

方法

「多面的感情状態尺度とは」で紹介した8つの尺度名は記載せず、40項目をばらばらに配置する。

- 1:全く感じていない
- 2:ほぼ感じていない
- 3:少し感じている
- 4:はっきり感じている

の4段階で評価してもらおう。このアンケートをまず何もしていない状態で評価してもらい、アップテンポの曲を聴いた後、スローテンポの曲を聴いた後の順に評価してもらおう。

仮説

◆ 気分の上がり下がりに関係のある項目、

- 抑鬱・不安
- 倦怠
- 活動的快
- 非活動的快

の4つの尺度に有意差が見られるのではないかと推測した。

結果

- ◆ 抑鬱・不安 有意差あり
- ◆ 敵意 有意差あり
- ◆ 倦怠 有意差あり
- ◆ 活動的快 有意差あり
- ◆ 非活動的快 有意差あり
- ◆ 親和 有意差なし
- ◆ 集中 有意差なし
- ◆ 驚愕 有意差あり

結果

分散分析(一元配置)で分析してみた結果

◆ 全体で有意差が出た尺度は

- 抑鬱・不安
- 活動的快
- 敵意
- 非活動的快
- 倦怠
- 驚愕

の6項目であった。

◆ 項目ごとで有意差が出たものは、40項目中24項目であった。

結果

- ◆ 有意差がでた尺度の「抑鬱・不安」「倦怠」「活動的快」「非活動的快」の4つの中の下位尺度は全て有意差がでた。
- ◆ 「敵意」「驚愕」の2つの中の下位尺度は、有意差がでないものもあった。
- ◆ 有意差が出なかった尺度の「親和」「集中」の2つの中の下位尺度では1つも有意差がでなかった。

考察

- ◆ 仮説で書いた4つの尺度には有意差が見られた。
- ◆ やはり気分の上がり下がりに関係のある尺度は音楽によって変化が起こると考える。
- ◆ 「敵意」「驚愕」の2つにも有意差が見られた。
- ◆ この2つの尺度は自分の感情状態ではなく、曲の感想として回答してしまった人が多く、有意差がでたのではないか。

まとめ

- ◆ 気分の上がり下がりに関係のある項目だけでなく、「敵意」「驚愕」にも変化が現れたことで新たな発見もあった。
- ◆ しかし今回は年齢層での違いや、使用した曲数、人の好みの音楽などを関与させずに実験を行ったため、この3つを考慮するとまた違う結果が現れたのではないかと考える。
今後の課題である。